(ID　0　) ☆7

治療計画書

療法名　JALSG AML-201 寛解後(Ara-C大量)　療法　1サイクル＿＿＿週

疾患名　急性骨髄性白血病(3サイクル)

注射		商品名	用量(/回)	投与ルート	投与時間	1							2							3							4						
内服	Rp		用量(/日)	用法		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
放射線		照射部位	照射量																														
注射	1	生理食塩液	1000 ml	点滴	キープ	●	●	●	●	●																							
注射	2	グラニセトロン	3 mg	点滴(側管)	30分 シタラビンの30分前	●	●	●	●	●																							
注射	3	シタラビン	2000 mg/㎡	点滴(側管)	3時間	●	●	●	●	●																							
		生理食塩液	500 ml	全量500mlに調製	12時間毎																												
注射	4	生理食塩液	50 ml	点滴(側管)	15分	●	●	●	●	●																							
注射	5	グラニセトロン	3 mg	点滴(側管)	30分 シタラビンの30分前	●	●	●	●	●																							
注射	6	シタラビン	2000 mg/㎡	点滴(側管)	3時間	●	●	●	●	●																							
		生理食塩液	500 ml	全量500mlに調製	12時間毎																												
注射	7	生理食塩液	50 ml	点滴(側管)	ルートフラッシュ	●	●	●	●	●																							
注射	8																																
注射	9																																
内服	1																																
内服	2																																
内服	3																																
内服	4																																
内服	5																																
内服	6																																
放射線			Gy																														

特記事項

core-binding factor leukemiaにおける寛解後療法　※65歳以上は通常寛解後療法を施行する
・開始条件：感染巣無し、好中球1500、白血球3000、血症板10万以上
・シタラビンによる角膜・結膜障害予防のためステロイド点眼を1日6回施行する
・シタラビンに起因する発熱や発疹に対しては投与前にヒドロコルチゾン100mgの静注を行う
・治療中は体重を毎日測定し体液管理を行う

減量規定

薬品名	シタラビン≪副作用による減量規定≫		シタラビン≪年齢による減量規定≫	
標準投与量		5日間投与		2000 mg/㎡
1段階減量	①直前のHDACで発熱性好中球減少症以外のGrade3の有害事象が見られた場合(食欲不振、悪心、嘔吐は含めない)②Grade4(生命を脅かす敗血症)が見られた場合③造血回復遅延：Day35までに好中球1000/μ L、血小板10万/μ Lまでの回復が見られなかった場合 ④治療開始時に好中球2000/μ L未満、血小板10～15万/μ Lの場合	4日間投与	60～64歳	1500 mg/㎡
			65歳以上	施行しない (通常寛解後療法を施行す
2段階減量	直前のHDACによって発熱性好中球減少以外の非血液毒性でGrade4の有害事象が見られた場合	3日間投与		